

●本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

年度	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
令和6年度	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	今年度から協働活動を開始する。地域と連携・協働するための組織的・継続的な仕組みの構築を目指し、ボランティア人材を確保しやすい環境を整備することが課題である。	今年度から協働活動を開始するため、これまで推進員がいなかった。学校がボランティアを確保する必要があり、十分な活動ができていない場合もあった。	・市立学校83校に対し、全体で推進員を60名以上配置。 ・推進員に学校と地域の連絡調整等を担ってもらい、学校支援を行うボランティア人材を確保する。	地域と連携能力のある、推進員の配置により、安定してボランティア人材を確保できる。	委嘱した推進員の人数	-	人	60	83	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた 目標値を達成し、全市立学校(小・中・特別支援・高等学校)に推進員を配置したことで、ボランティア人材を確保する仕組みの構築ができた。しかし、各学校の活動に差があるので、今後も継続して活動を行う中で、地域の理解を深め、安定してボランティア人材を確保できるようにするとともに、協働活動内容を充実させる必要がある。
令和7年度	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	地域と連携・協働するための組織的・継続的な仕組みの構築を目指し、学校に対する理解を深め、ボランティア人材を確保しやすい環境を整備することが課題である。	地域学校協働活動推進員を市立小・中・高・特別支援学校全校に配置する。推進員に学校と地域の連絡調整等を担ってもらい、学校支援を行うボランティア人材を確保し、活動を充実させる。	令和6年度地域学校協働活動推進員を全校に配置することができたので、継続して取り組むと共に、各学校の推進員交流の場を設け、ボランティア人材の確保の仕方を検討する。	ボランティア人材を増やし、地域と学校間の交流を活性化させることで、地域住民等の学校への理解を深める。また、協働活動を充実させ、地域全体の活性化に繋げる。	協働活動を実施したことで学校に対する地域や保護者の理解が深まったと認識している学校の割合	-	%	70		